

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-900   A-139	22-026	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Use of heated tobacco products, moderate alcohol drinking, and anti-SARS-CoV-2 IgG antibody titers after BNT162b2 vaccination among Japanese healthcare workers</p> <p>日本人医療従事者の BNT162b2 ワクチン接種後の加熱式タバコの使用、適度な飲酒と抗 SARS-CoV-2 IgG 抗体価について</p>		
<b>執筆者</b>		
Yamamoto S, Tanaka A, Ohmagari N, Yamaguchi K, Ishitsuka K, Morisaki N, et al.		
<b>掲載誌</b>		
Prev Med. 2022 Aug;161:107123. doi: 10.1016/j.ypmed.2022.107123.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
喫煙,加熱式タバコ、アルコール飲酒、 COVID-19 ワクチン、 免疫原性	35787841	
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的:</b> 加熱式タバコ製品 (HTPs) 使用と適度な飲酒がコロナウイルス病 (COVID-19) ワクチンの免疫原性に及ぼす影響は依然として不明である。本研究では、BNT162b2 ワクチン接種後の抗 SARS-CoV-2 スパイク IgG 抗体価とタバコ製品使用および飲酒の関連性を検討することを目的とした。</p> <p><b>方法:</b> 日本の 4 つの国立高度医療研究センターで 2 回のワクチン接種を受けた 3433 人の医療従事者を対象とした。喫煙状況と飲酒量は質問票によって評価し、抗 SARS-CoV-2 スパイク IgG 抗体価は 2 回目のワクチン接種後 64 日目 (中央値) に採取した血清を用いて化学発光酵素免疫測定法で測定した。マルチレベル線形回帰モデルを用いて、共変量を調整した群間幾何平均抗体価 (GMT) および平均値の比 (RoM) を推定した。</p> <p><b>結果:</b> 非喫煙者 (GMT=118) に比べ、HTPs 使用者 (タバコも吸う人を含む) (GMT=105, RoM=0.89 [95%CI: 0.78-0.99]) およびタバコ専従者 (GMT=98, RoM=0.81 [95%CI: 0.71-0.92]) では IgG 抗体価は著しく低値であった。アルコール非飲酒者 (GMT=123) と比較して、アルコール摂取量が 1g/日未満 (GMT=113; RoM=0.93 [95%CI: 0.88-0.98]), 1-1.9g/日 (GMT=104; RoM=0.85 [95%CI: 0.78-0.93]) および 2g/日以上 (GMT=103; RoM=0.84 [95%CI: 0.74-0.96]) で抗体価は低かった (傾向性検定 <math>p &lt; 0.01</math>)。スプライン回帰では、飲酒量 1g/日前後まで抗体価の低下が大きく、その後徐々に低下した。</p> <p><b>結論:</b> 従来のタバコと大量飲酒に加えて、HTPs の使用と適度な飲酒が COVID-19 ワクチンに対する免疫反応低下の予測因子である可能性が示唆された。</p>		